

# シマゲンゴロウ

*Hydaticus bowringi* Clark

## コウチュウ目ゲンゴロウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

### 選定理由

かつては水田における普通種であるが、都市部ではほとんど見られなくなった。県内の記録は3例のみであり、2000年以降の確認例はない。

### 形態

体長12.5~14mm。体型は卵型でよく膨隆し光沢を有する。頭部、前胸背は淡黄褐色で、それらの後縁中央は黒色。上翅は黒色で、中央と側縁近くに淡黄色の縦条があり、後方で合一する。上翅内方の基部直後に淡黄色の2つの円紋がある。体下面は黄~赤褐色である。幼虫は最大約25mmのいも虫状。

### 国内分布

北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。富山県では50年以上確認されておらず、福井県では若狭地方で2001年の発見例がある。

### 県内分布

平野部である小松市中心部における1951年6月の記録がある。1990年代に輪島市丘陵部の水田脇の浅い水たまり、穴水町平野部の灯火にて1個体ずつが確認されたが、いずれも発生地は不明である。

### 生態

5~7月頃に水草の茎や葉の表面などに産卵する。幼虫は3齢になり老熟すると、岸辺に上陸して土中で蛹化する。成虫は日中でも活発に動き回り、夏季には灯火に飛来する。10月~4月頃は林床などに上陸して越冬すると考えられている。幼虫、成虫ともに肉食である。

### 生息地の条件

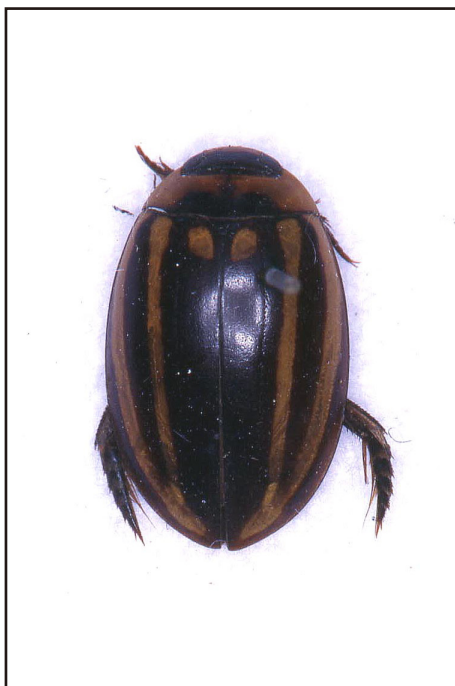
平野部~丘陵部の、浅く水生植物の豊富な池沼、湿地、水田、放棄水田に生息する。周辺には、多様な環境を含み、多くの生物が生息する良好な里山環境が必要である。

### 生存の危機

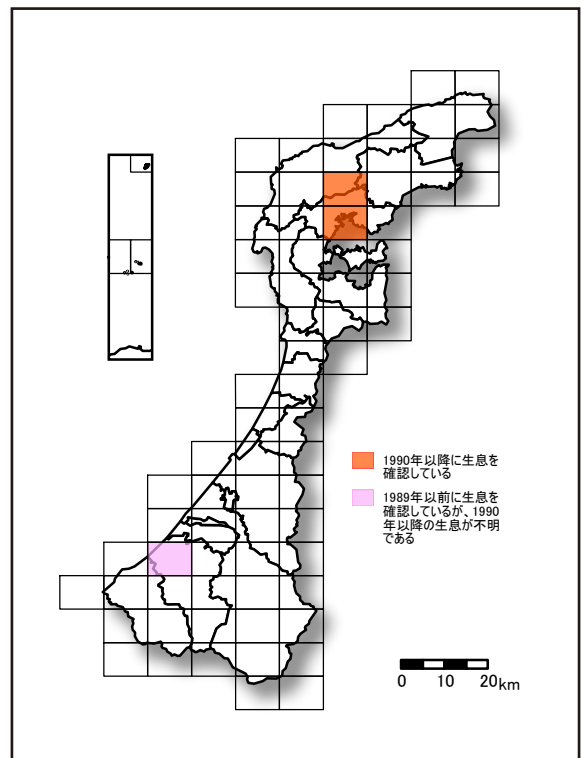
採集された地域の池沼、湿地の開発などによる消失、ほ場整備、アメリカザリガニの侵入、周辺の里山環境の変化が脅威である。発生地の発見がのぞまれる。(A, B)

### 参考文献

山口英夫 1996. 石川県でシマゲンゴロウ発見. 翔, (122) : 1.  
和田茂樹 2001. 福井県におけるナガサキアゲハとシマゲンゴロウの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (48) : 75-76.



標本提供者:小松市立博物館



県内の分布